

## 飼料用米として利用できる 「つぶゆたか」(岩南 29号)および「つぶみのり」(岩手 85号)の施肥法

### 【1 成果概要】

飼料用米として利用できる水稲「つぶゆたか」(岩南 29号)および「つぶみのり」(岩手 85号)を開発しました。粗玄米収量で750kg/10a確保を目標とする施肥法は次のとおりです。

「つぶゆたか」(岩南 29号)の施肥法は、窒素成分で基肥は「ひとめぼれ」より2~3kg/10a多い8~9kg/10aとし、6月中旬頃の分けつ期と幼穂形成期にそれぞれ2kg/10a追肥します。

表1 「つぶゆたか」(岩南 29号)の施肥法と評価(平成16,17,20年、農業研究センター)

基肥	窒素施肥量(kg/10a)			粗玄米収量(kg/10a)	m <sup>2</sup> 穂数(本)	倒伏(0~5)	評価	概評
	分けつ期	幼穂形成期	減数分裂期					
6		2		728	357	0	×	穂数不足の危険
6		2	2	775	336	0		穂数不足の危険
9		2		733	377	7.1	×	穂数不足の危険
9	2	2		766	402	0.5		

(「評価」の凡例) : おすすめ事例、×:心配事例、 : 中間

「つぶみのり」(岩手 85号)の施肥法は、窒素成分で、基肥は「あきたこまち」より多い6~9kg/10aとし、籾数確保のため幼穂形成期追肥2kg/10aは必ず実施します。倒伏を回避するため、幼穂形成期以前の追肥は控えます。

表2 「つぶみのり」(岩手 85号)の施肥法と評価(平成20年、東北農業研究所(軽米町))

基肥	窒素施肥量(kg/10a)		粗玄米収量(kg/10a)	倒伏(0~5)	評価	概評
	幼穂形成期	穂揃期				
6	2		813	0.4		
8	2		805	0.4		
9	3		817	1.3		倒伏の危険
9	3	3	839	2.2	×	倒伏の危険

(「評価」の凡例) : おすすめ事例、×:心配事例、 : 中間

### 【2 効果】

「つぶゆたか」(岩南 29号)および「つぶみのり」(岩手 85号)は基肥を増やし追肥をすることで、安定的に多収が得られます。

### 【3 留意事項】

- 「つぶみのり」(岩手 85号)は倒伏防止のため、十分に中干しを実施します。
- いもち防除は通常どおり行います。

### 【4 適応対象】

- 地帯 (1)「つぶゆたか」(岩南 29号):盛岡以南の北上川流域標高200m以下  
(2)「つぶみのり」(岩手 85号):「いわてっこ」および「あきたこまち」作付け地帯
- 対象者 栽培指導者